

**佐賀小学校
佐賀中学校**
「人間を大事に」

校長 清水 幸賢

◆はじめに

今年度、佐賀小学校では、6名の新生入生と2学期から1名の転入生を迎え、全校児童59名、教職員15名で教育活動に取り組んでいます。また、佐賀中学校では、12名の新生入生を迎え、全校生徒39名、教職員20名で教育活動に取り組んでいます。

佐賀小学校と佐賀中学校では、令和2年度から小中連携教育の研究と取組を開始し、昨年度からは小中一貫教育を進めています。

◆2校の学校です

小中一貫教育には、小・中学校を1つの学校とする「義務教育学校」という形態もありますが、佐賀小学校と佐賀中学校が実施する一貫教育は、学校形態は変更せず、全教職員が両校を併任することで、小中9年間を連続した教育として、質の高い取組をめざすものです。

◆学校教育目標

「人間を大事にし、自他ともに大切にすることができ、〜」を教育目標に掲げ、人権や思いやりの心を大切にすることを続けています。日々、さまざまな出来事が起こる中で、「真に人間を大事にするとはどういうことか」を、児童生徒と教職員がともに考えながら、歩みを進めています。

◆2校がめざす児童生徒像

- 学ぶ意欲をもち、自ら考え、主体的に判断し、行動できる児童生徒
- 自他の違いを認め、自他ともに大切にできる児童生徒
- ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに貢献する児童生徒
- 困難に負けず、最後までやり抜く児童生徒

◆つなげる教育をめざして

佐賀小学校・佐賀中学校では、小中9年間の学びがスムーズにつながるような取組を大切にしています。しかしながら、子どもたちの学びは、小学校に入る前の保育所から始まっています。

ます。小学校入学をゼロからのスタートとせず、「保育所から小学校へ、そして中学校へ」と自然に成長できる環境づくりをめざし、佐賀保育所との連携も大切にしていきます。



また、佐賀保育所を卒園した子どもたちは、拳ノ川小学校と佐賀小学校に分かれて進学し、その後、再び佐賀中学校に通うこととなります。子ども同士の間には、拳ノ川小学校とも協力しながら小中連携にも取り組んでいます。

また、小中学生にとって高校生の活動や姿を見ることは大きな刺激となり、大変有意義な経験となります。今後は大方高校との交流もお願いしたいと考えており、10月には防災に関する活動と一緒にさせていただきます。

◆この地域の「一員」として

総合的な学習の時間や学校行事などで「地域とつながる」「地域に出かける」ことを意識した教育活動を大切に行っています。こうした活動を通じて、探究的な学び、多面的・多角的な考え、地域への愛着、コミュニケーション能力、確かな人権感覚などの高まりをめざしています。活動を支えてくださっている保護者や「さがっ子まもり隊」の方々をはじめ、地域・各事業所の皆さんのご協力に心より感謝申し上げます。

また、本年度より「地域に出かける」実践の一環として、地域でのボランティア活動を行う佐賀中学校「つむぎ会」を立ち上げました。「地域の一員」として、地域の笑顔のために」というスローガンのもと地域でのボランティア活動に取り組んでいます。



◆英語教育

本年度、高知県教育委員会の「高知の魅力発信グローバル人材育成事業」の指定を受け、中学校英語科教員を中心に取り組んでいます。この事業は、小学校・中学校・高等学校を通して、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力、発信力を育成することを目的としており、授業研究会などを通じて取り組んでいます。11月には佐賀小学校、佐賀中学校、大方高校による合同授業研究会を実施する予定です。

◆終わりに

佐賀小学校、佐賀中学校は「地域とともにある学校」でありたいと考え、児童生徒・教職員が丸となって取組を進めてまいります。これからも、地域の皆さんの温かいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



南郷小学校

「いつも笑顔で元気です」

校長 永野 恵理香

◆はじめに

全校児童55名、教職員14名で教育活動にあたっています。今夏も熱中症アラートが鳴り、連日注意を呼び掛ける日々が続き、休み時間の児童の様子、授業での外活動や学校行事の在り方など毎日思考しながらの取組を進めました。傍らで、長い休み時間や放課後の下校時刻までの時間には元気に外で遊ぶ児童の姿はいつも変わらない南郷の子どもたちの姿があり、元気をもらっています。

さて、本校では学力向上に向けて、授業スタンダードとして「南郷小授業10の型」を令和2年度から改良を続けながら児童一人ひとりの「したい」を引き出す授業に取り組んでいます。同時にユニバーサルデザインに基づいた授業づくりを大切に、どの子も困らないことを前提にしています。

◆安全・安心を一番に

▼地域フィールドワーク

年に1回全校での集団下校を行っています。この日は、各地域別に児童が分かれて帰ります。班長さんはタブレットを持ち、上級生は下級生に登下校での危険箇所やもしも地震が起きたとき、この場所からならどこへ避難するのかなどを話しながら下校します。上級生になつてくると詳しく下級生に話すことができたり、昨年との変化に気づき新しい危険を見つけ出したりすることができま



▼避難訓練

面・時間帯で

さまざまな場面・時間に10回の訓練がありますが、地震・火災・土砂災害・不審者対応などさま

ざまな場面を設定しています。

本校は海からも近く、海拔6.6mであり、いざというときはとにかく裏山に駆け上り、地域の方々が建ててくださったヤモウジの避難小屋へまっしぐらに避難することを常日頃から児童と確認しています。年1回の引き渡し訓練を今年度もヤモウジで行いました。ここには個々に準備した避難袋を置いていきます。この日は避難袋を年1回の持ち帰り日としており、家族と確認し食品を入れ替えることと



▼不審者対応訓練では、こ

こ数年、教職員も綿密な打ち合わせを共有せず、その時どう判断して児童を守り教職員自らも守っていくの

かをとっさの判断で取り組んでいます。今年度は、児童を不審者から遠ざけるために低・中・高学年で逃げた方向がさまざまになりました。静かに待機、行動すること、教員の大事な言葉を聞き落とさずに移動することができました。

◆地域力・保護者力

▼南郷小子ども見守り隊

街頭指導は保護者の方ももちろん、地域の方も登校を見守ってくださいています。緑のジャンパーと黄色い旗が目印です。遠くからでもすぐに目につきます。見守ってくださいている方々と児童が朝の挨拶を元気にかわす声を聞くところが一番元気をもらえるところです。気が、いかがでしょうか。児童会の取組としてもあいさつ運動を行い、努力しているところ

です。①つかく ②かか ③つづ ④つづき ⑤つづき ⑥つづき ⑦つづき ⑧つづき ⑨つづき

▼環境整備

8月の愛校作業では、草刈り機がこんなにも揃う学校があるのかと思うほどの数が揃います。学校だけでは手が届かな

いところまで草刈り、木の剪定、溝や樋の泥や枯葉の除去、校舎内の階段清掃などを行います。地域の方も参加していただき、見違えるほどになります。保護者の動く傍ら、児童も校庭や裏庭の草引きに励み、まさに学校・家庭・地域の連携で環境が守られています。



保護者の方には、7月も避難場所のヤモウジへ通じる道を整備していただいております、児童の命を守るための道を確保でき感謝しております。

◆終わりに

令和になり、今まで以上に学校教育が社会とともに急速に変化している中、家庭と地域との連携は変わらず維持していかなくてはならないと感じています。児童のこれからの未来のために教職員一同で協力して取り組んでまいります。